



# 尾間木中だより

学校教育目標  
豊かな心を持ち、  
たくましく生きる生徒

平成 29年 6月 1日 第3号

〒336-0926 さいたま市緑区東浦和4-29-1  
電話 048-874-9733  
FAX 048-810-1127



## 「夢中になる」

校長 堀 田 明 良

雲が晴れると夏の日差しが降り注ぐ季節となってきました。愛鳥週間も終わる頃となるとひな鳥も巣から飛び立ち、単独でえさを探すような姿を見かけるようになりました。先日、まだ怖さを知らないひな鳥が人家の玄関に止まっていて、その様子を親鳥が心配そうに見守っている姿を見かけました。また、車で出張に行く途中、キジバトの若鳥が越谷街道の路上のえさをついばむのに夢中になっているところに出会い、キジバトが飛び立つまで停止せざるを得なかった時がありました。見通しの良い路上での出来事でしたので、その様子が分からない後続車両はさぞ不思議に思ったことでしょう。

生徒の皆さんもスポーツ、ゲーム、読書、会話そして勉強など今まで様々なことに夢中になったことと思います。また、夢中になって成功したこと、失敗したことそれぞれ経験があるのではないかと思います。昭和の人々に大きな影響を与えた哲学者の和辻哲郎（わつじてつろう）氏は自身が記した随筆「茸（きのこ）狩り」で夢中になる事の大切さを述べています。和辻氏は少年時代にきのこ狩りに夢中になりました。夢中になったきっかけは、きのこの価値がわかっていた訳ではなく、大人や年長者が夢中になっていた姿を見て、子どもたちも「あの人たちが喜ぶのだったら楽しいに違いない」と思ったからだそうです。仲間同士でどれが毒きのこでどれがいいきのこのか、いいきのこはどこにあって、どんな環境にあるのかなどの情報交換。情報を基に森の下草を踏み分けてきのこ探し。知人に会いに行く前のような心のときめき。見つけたきのこの色鮮やかさ、大きさへの感動と、見つからなかった時の失望感。これらの体験がとても楽しかったそうです。これが探求することの原型であると言っています。夢中になる事とは探求することを学ぶ事でもあるのです。

しかしながら、夢中になりすぎて失敗することもあります。前述のキジバトの例もありますが、人間でもありません。集中力を発揮することは素晴らしいのですが、一つのことにとらわれ、なかなかやめられず、他のことがおろそかになってしまうことが、集団や組織で起こると大変なことになります。集団や組織の暴走は取り返しのつかないこととなりかねません。一つの例として、集団には「同調圧力」といって少数意見を言いづらくなる雰囲気ができることがあります。行き過ぎると少数意見を言った人を集団で攻撃することも起こります。集団や組織の進むべき方向が誤っている時、進むことにとらわれ過ぎ、正しいことがおろそかになってしまうこともあります。そのような場合、同調圧力により正しい意見が言いにくくなり、方向修正ができなくなります。そしてそのまま突き進むとその集団や組織ではよいことは起こりません。

このような集団や組織とならないよう正しい判断をしたり、少数意見を尊重したり、様々な角度から物事を考えたりすることが大切です。夢中になる事と上手に付き合っていきたいですね。

「進むべき道を進めば賢くなる。」

（ミア・ファロー アメリカ合衆国の女優）